

令和 8 年 9 月 小 谷 村 議 会 定 例 会
一 般 質 問 要 旨

令和 8 年 9 月 9 日（水）午前 10 時開議

① 8 番 曾根原 恵子 議員

(1) 学童保育のさらなる充実について

② 4 番 清水 秀雄 議員

(1) 山岳遭難対策について

③ 1 番 横澤 匠 議員

(1) 地域公共交通・二次交通の再構築について

(2) 村の夏季観光の現状と課題、今後の対策について

④ 3 番 柴田 友造 議員

(1) 人口対策について

(2) 地域の支え合いについて

⑤ 2 番 田原 富美子 議員

(1) あらゆる災害に対しての準備・訓練・対応について

令和8年8月24日

小谷村議長 宮澤 正廣 殿

小谷村議会議員 8番 曾根原 恵子

一 般 質 問 通 告 書

次とおり一般質問の通告をします。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 学童保育のさらなる 充実について	「安心して働きたい」「子どもに豊かな放課後や学校 休日を過ごさせたい」という保護者の願いから学童保育 が生まれ、働き方の理由により、保護者が昼間家庭に いない小学生の「生活の場」となっています。 指導員の資格・配置基準は省令に定められているが、 指導員と保護者が時間をかけて、行政や議会の理解 を得ながら、運営の中身充実を蓄積してきました。 より良い学童保育を目指すべく村は、指導員の仕事を どのように考えているか伺います。 1・関係機関や地域との連携・協力など多岐にわたる 指導員の仕事に、行政はどのような支援をしているか。 2・指導員の処遇改善は進んでいるか。 3・指導員の専門性についてはどのように担保しているか。 ○専門性を高める研修の機会や放課後児童支援員 の基礎資格取得の仕組みはあるか。 4・子ども家庭庁ができたことで、学童保育の指針等に どのような変化があったか。	村長 関係課長

小谷村議会議長 宮沢 正廣 様

小谷村議会議員 4番 清水 秀雄

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1. 山岳遭難・事故の対策について	大町警察署によると、本年を含む直近5年間の管内では、当年度最多の件数が発生しており、前年度は 358 件で当年 8/17 までに 217 件、224 名の遭難者であり、死者 19 名、負傷者 29 名であります。 山岳遭難の傾向として、4月～6月は残雪登山中の滑落、7月以降夏山・秋山シーズンは高齢者を中心に準備不足・体力不足と疲労や転倒等による遭難の発生が多くみられます。 また、インバウンドによるバックカントリー遭難、夏・秋はアジア系外国人の遭難が多いく、SNS・インターネットの普及、観光やレジャー感覚の延長で山に足を踏み入れる傾向が多いとの事です。 山小屋経営としては、遭難情報が多く出ることにより、風評被害を懸念する声も聞こえてきます。今年の 7/18～8/11 まで、拇池自然園登山口で「安全登山者啓発ゲート」を設置しておりましたが、ほぼ毎日遭難者が発生し、遭難救助対応のため、小谷村の駐在所がたびたび不在となる状況でした。 また、村のホームページの、「いまどきおたり スタッフブログ」にも登山情報がありますが、白馬山荘に暗くなってたどり着く登山者が後を絶たないため、「夏山の常識として早めに小屋に到達できる計画を!!」と注意書きがありました。 そこで、次について伺います。 ① 登山道の情報をどのような形で提供しているか。 ② 登山は余裕を持った行動が必要だが、ゴンドラリフト等の営業時間は適正か。 ③ 2025 年度から始まった「登山協力金」の概要。 ④ 直近5年間の登山道整備の予算額と整備実績。	村長 関係課長

令和 8 年 8 月 24 日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 1 番 横澤 匠

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1 地域公共交通・二次交通の再構築について 「住民の足と観光客の足を将来にわたり確保するために」	地域公共交通は単なる移動手段ではなく、住民が安心して暮らし続けるための「生活基盤」であり、同時に観光客が村を訪れ、村内を周遊し、地域で消費してもらえるための「観光基盤」でもあります。高齢化が進むなか、移動手段をどう確保していくかは、今後ますます重要な課題となります。 一方、観光面では、宿泊施設の「泊食分離」化が急速に進み、また冬季のインバウンド需要の増加に伴い「駅まで来ても、その先の移動が不便」、「店や病院等への移動が困難」といった、二次交通の不便さが、観光客の滞在・周遊を妨げる要因にもなっていると考えられます。 現在、村では、それぞれ取り組みを進めていることは評価できます。しかし個別の事業を増やすということではなく、必要なのは「小谷村の公共交通の将来像」を明確にすることではないでしょうか。そこで、村の地域公共交通施策の現状認識のため、以下について質問いたします。 ① 村では複数の交通手段があります。しかし、交通手段が存在することと、「必要な人が、必要な時に、目的地まで移動できる」こととは同じではありません。住民ニーズに合っているのか、検証が必要です。現在の村の公共交通について、住民の生活を支える、最低限必要な移動	村長 副村長 関係課長

	をどのように定義し、現在の村の交通体系をどのように認識しているのか。 ② デマンドタクシーについて、直近の登録者数、行先別利用件数、利用者の年代構成、地域別の利用状況。 ③ 村営バスについて、直近の利用者数、運行経費、一人当たりの輸送コスト、時間帯別利用状況。 ④ 現在、村営バス・デマンドタクシー等の村全体の移動サービスを検証し、効率化等の検討をおこなっていると思うが、その進捗状況。 ⑤ 将来的には、村営バスとデマンドタクシーを別々に考えるのではなく、一体的な公共交通システムとして再編することについての考え。 ⑥ 観光客の足「二次交通」について、冬季インバウンドだけではなく、この夏の観光客からも「駅からの移動」や「スーパー等へ移動」が非常に困難だと多数意見を聞いています。宿泊形態も泊食分離が進むなか、この課題を見過ごすわけにはいきません。村として、観光客の二次交通の課題をどのように捉えているのか。 ⑦ 観光は広域で考えていく必要もある。観光客の二次交通について、村内だけの対策ではなく、白馬村や糸魚川市等と連携することについての考え。 ⑧ 観光客も利用できるデマンドタクシー、アプリで予約可能な AI デマンドタクシーの検討状況。 ⑨ 小谷村版「地域公共交通計画」が必要だと思います。10年後、20年後を見据えた地域公共交通のグランドデザイン、例えば、「小谷村交通ビジョン 2035」などを策定し、住民の足として、また観光客の足として、住民にも観光客にも使いやすい交通をどうつくるか、将来ビジョンの	
--	--	--

2 村の夏季観光の現状と課題、今後の対策について	策定についての考え。 村では令和8年度から12年度までの「梶池高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナスキー場地区都市再生整備計画」において、「通年型観光を支える滞在環境の整備・高度化」や「グリーンシーズン観光推進事業」を掲げています。 また、令和8年8月1日には、小谷村が妙高戸隠連山国立公園内の「ゼロカーボンパーク」に登録されました。このことは、村の豊かな自然を「守る」だけでなく、自然を生かした持続可能な観光を進める上で、大きなチャンスであると考えます。 そこで、村の夏季観光について伺います。 ① 村内における直近の夏季観光客一人当たりの観光消費額及び消費状況。 ② 夏季の滞在型観光及び体験型観光の商品造成についての取り組み状況。 ③ ゼロカーボンパークを観光と脱炭素を組み合わせた施策として、夏季観光にどのように活用し、収益につなげていくのか。 また、ゼロカーボンパークを実効性のある取り組みとするためには、「車で来る観光」から「公共交通・自転車等を組み合わせた観光」へ転換も必要になってくるが、「車がなくても楽しめる小谷」の観光施策の展開についての考え。	村長 副村長 関係課長
---------------------------------	--	----------------------------

令和8年8月24日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 3番 柴 田 友 造

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1.人口対策について	令和4年6月「山村留学制度による村づくりと教育について」の質問で、今後の出生数はおおむね10～15人前後と推移する」との答弁でした。 しかし、令和8年度の出生数は予想で4人と子育て支援センターから聞いています。人口減少は全国的な課題ではありますが、このまま一桁で推移すると村の将来に不安を感じます。 そこで、次について伺います。 ① 現在、5歳児が14人、3歳児が13人、1歳児が11人、0歳児が10人と減少傾向にある中、ここにきて急に一桁に減少しているが、急激に減少した原因をどう捉えているか。 ② 出生数や人口増施策の現状と課題及び今後の施策について ③ 今後の出生数の見込みを含めた人口推計と目標人口数値を令和12年(2030年)から令和42年(2060年)までの第6次総合計画と比較した5年ごとの数値について ④ 児童減少が続くと複式学級となる心配があるが、複式学級の基準や条件について ⑤ 児童減少対策としての「山村留学」の可能性について	村長 教育長 関係課長

2.地域の支え合いについて	人口減少により、地域の困りごとを解決するためにも地域の支え合いがますます大切になってきます。 以前、村長公約の「地域の困りごとを解決する地域お助け隊」について、2回質問しました。令和5年9月では、「お助け隊がよかれと思ったことが、かえって地域コミュニティの崩れる原因となることのないような施策とすべく着実に進める」また、令和6年9月では、「目に見える形での組織を作ることに関しては現在あるコミュニティを大切にしなければならないといった観点から慎重に進める」との答弁でした。 公約「地域お助け隊」の担当課と現在どのように進め、取り組んできた内容などの進捗状況、また、今後どのように進めていくのか具体的に伺います。	村長 関係課長
----------------------	--	--------------------

令和 8 年 8 月 24 日

小谷村議会議長 宮澤 正廣 様

小谷村議会議員 2 番 田原 富美子

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり一般質問の通告をします。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
1. あらゆる災害に対しての準備・訓練・対応について	7月28日に発生した熊本地震、8月13日の千葉県豪雨災害で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。 小谷村でも、平成7年の豪雨災害、平成26年の神城断層地震等の経験を踏まえ、いつ起こるかわからない災害への備え、避難行動要支援・共助訓練など、地域での関わりが重要だと考えます。 また、自然災害発生時に予想される停電・交通通信網の遮断など、パニック状況の鎮静対策として、事前の計画と訓練の重要性は高いと思いますが、村の施策として村民の生命を守るための取り組みを伺う。 (1) 自主防災組織の設置状況 (2) 避難行動要支援者名簿・個別避難計画・地区防災マップの作成状況、及び災害時の各集落・自主防災組織・消防団・民生委員等との情報共有・活用方法。 (3) 教育現場における防災教育の現状と課題。 (4) 避難所や公民館での AED の設置状況と講習会の開催状況。 (5) 指定避難所に設置された防災倉庫の備蓄内容と鍵の管理方法。 (6) 消防団に女性消防隊を設置するにあたり、求められる災害時の活動内容と訓練。	村長 教育長 関係課長